

## 17-5 情報伝達の迅速化に向けた新しい取り組み

情報伝達経路を光ファイバーなどの大容量で高速な回線にするとともに、回線を専用回線とし、水防組織間で整備することで情報の共有化を推進する必要があります。

そこで、光ファイバー通信網や専用回線等を徳島県や各市町村の水防本部まで整備して情報の共有化を促進します。

### (1) 映像の情報の共有化

吉野川沿川に設置されたカメラから送られる洪水時の河川の様子や堤防・水門等の映像情報を共有します。

### (2) 水門情報の共有化

洪水時には、10分間隔（平常時は約1時間間隔）に観測した雨量、水位、ダム放流量などの水門情報を共有します。

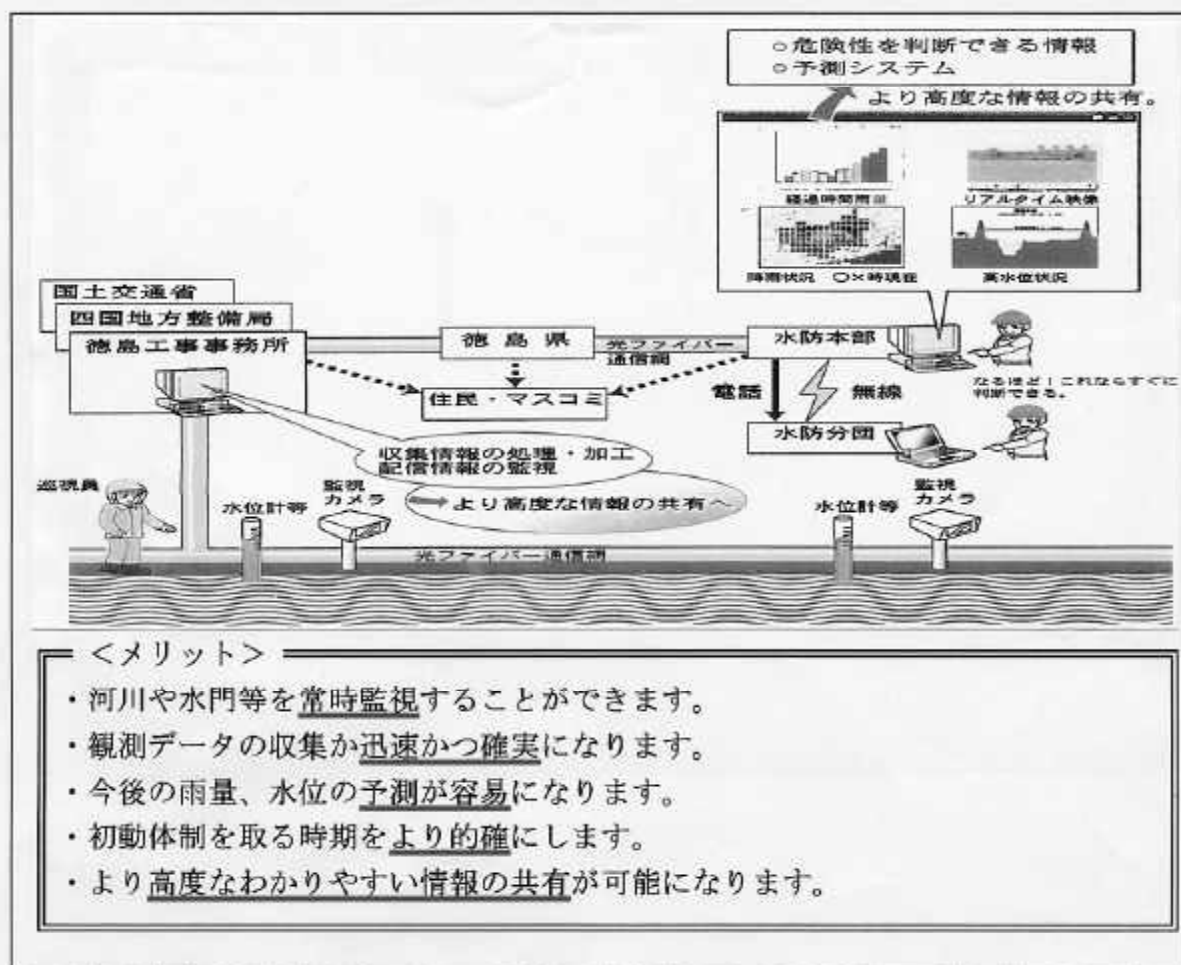
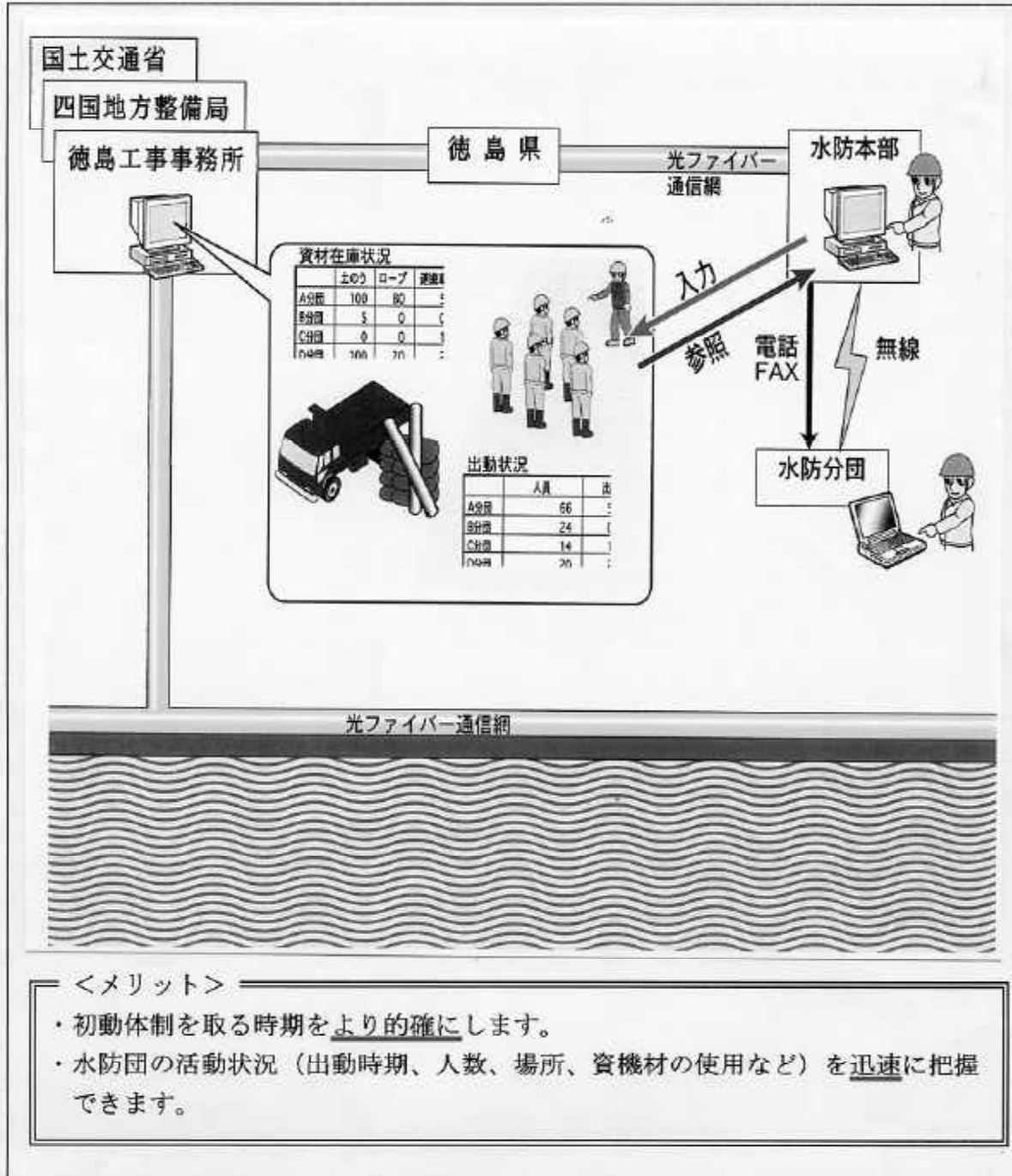


図17-5-1 情報の共有化への取り組み

### (3) 水防活動情報の共有化

水防活動の現場状況を把握できるよう、水防団出動時の人数や場所、時刻などの情報を共有します。また、水防活動に使用する資機材の保管場所や在庫数量が一目で分かるよう資機材データベースを整備します。



#### <メリット>

- ・初動体制を取る時期をよりの確にします。
- ・水防団の活動状況（出動時期、人数、場所、資機材の使用など）を迅速に把握できます。

図 17-5-2 情報の共有化への取り組み